

第72回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年7月31日 18:30~20:00

場所 児島支所大会議室

要約版

《市長》

皆さん、こんばんは。今日は、第72回目になります市民ふれあいトーク、平成20年からでございますので、大体月に1回くらいずつ、市議会のない月に開催をしております、私の方から各地区にお邪魔をさせていただきます、地域のことにつきまして皆さんにご意見をいただきました、また、ご質問をいただきました、私がすぐ答えられないこともあるかと思えますけれど、皆さんがどういうところに関心を持ってくださっているのか、どういうところが課題だと思っているのか、ということなどの意見交換ができればと思っております。最初、15分ぐらい私の方で最近の状況などについてお話をしまして、それから意見交換という形にできればと思っておりますのでよろしくお願いをしたいと思います。

今日、山陽新聞の一面の滴一滴のところにはひるね姫のことが書いてあったんですけど、ひるね姫、非常に良かったということで、映画の舞台がこの倉敷市下津井地区ということで今フォトラリーというのをしております。倉敷市内では大体5月ぐらいまで映画館で上映がございました。国内の映画としては地域の皆さんの応援もありまして非常に良かったと思っておりますけれど、この後、海外での封切りもされております。アジアの国でも、確かタイ、インドネシア、シンガポールなど数か国で上映をされまして、その後、秋にはヨーロッパの方で上映をされるということ配給会社の方から聞いておりますので、地元が映画が終わったからと言って油断しないで、また（海外の方が）来られるんじゃないかと思えますので、よろしくお願いしたいと思います。

それから、本物を持ってきたんですけど、これが何かと言いますと、今日から受付の原付のオリジナルナンバープレート、ご当地デザインのもので、これは見本で使ったんで2017は倉敷市の番号で使うことになるんですけど、これの本物でございます。今年は、ご存知のように児島、玉島、倉敷の合併50年ということなんで、50ccのバイクのオリジナルナンバープレートを作ろうということで、まずデザインを募集いたしました、市内からたくさん（応募が）来ました中で一番優秀作品だったのが、今、お見せしているものなんです。ジーンズのデザインのもの非常に多くて、学生服のデザインや、倉敷市の鳥のカワセミとか、フジの花というものもあったんですけど、この（ジーンズの）デザインは玉島の学生さんが描かれましたものです。ナンバープレートは今日から申請を受け始めているんですけど、希望ナンバーのものは事前に募集をいたしまして、それで今、大体500番号ぐらい大変好評をいただいております。原付を持たれている方で、検討される方がいらっしゃいましたら、今回のナンバープレートの変更は無料ですので、よろしくお願いいたします。

さて、ここ最近の倉敷市にとりまして大きなことを時系列に最近から言いますと、日本遺産にこの倉敷市の繊維産業が文部科学省の文化庁から、4月28日に認定をされたということでございます。これがどういうものかと言いますと、世界遺産というのは皆さんよくご存知だと思うんですけど、この日本遺産というのは日本国政府が国内、それから世界の方々に、これからオリンピックが2020年にありますので、それに向けまして、日本

国内の各地域で誇るべき場所や産業を国が文化的な観点から、また文化財の観点から、地域の産業の観点から認定をしますというのが、この日本遺産でございました。

それで、私が大変うれしかったのは、もちろん繊維産業はこの児島が一番盛んなわけですけど、例えば玉島の備中の綿、それから倉敷の倉敷紡績をはじめとする大原さんの大原美術館や大原家などの史跡などなども全般的に渡って、倉敷市の繊維産業が日本で一番いいということを国が認めてくださったということでございます。構成文化財としては、例えば野崎さんの野崎家住宅、大きなものとしては児島の繊維産業、そして下津井町並み保存地区、むかし下津井回船問屋、また文化としての下津井節、そして由加神社、蓮台寺などの構成文化財がものとしては指定をされたわけですけど、それを含めました繊維のまち全体が認定をされたということが、大変良かったと思っております。

皆様がご存知のように、この倉敷市の繊維産業は、歴史的にそして品質的にもそうなんですけれども、繊維製品の出荷額が1, 215億円で日本で一番になっているんです。数年前までは大阪市さんとか、それから愛知県の岡崎市さんとか、順番が前後してたわけですけど、この2~3年前ぐらいから最近のジーンズ、デニムのこともグッと伸びてきた要因ではないかと思えます。今、市長会に行きましても、「伊東市長」ではなくて「ジーンズ市長」と呼ばれておまして、それでPRをしながら、「これが日本遺産になったんですよ」と言っております。今日、バッチをつけているんですけど、文化庁がこの日本遺産に認定になったところに配給をしてくださるものでございまして、日の丸の下にちょっとバーコードみたいなのが書いてありまして、何が書いてあるのか見にくいんですけど、ジャパン・ヘリテージという英語を縦長にして、国が作りました。だから海外の人が見てもこのバッチ、マークがついてる地域は日本が誇るべき地域だということが分かるようになっていてございまして。

最近で言いますと、この繊維産業について、テレビでジーンズストリートのことが出たり、ジーンズミュージアムのことが出たり、学生服資料館のことが出たりということが非常に多いんですけど、それに加えまして、ここ児島のマリンプールと、我々がずっと一緒に行ってきた水球のことで、皆さんもニュースで見られたことがあるかと思えますけれど、ポセイドンジャパン、水球の日本代表のチームが、移動のときとかに着る服としまして、我々の地元のデニムのスーツを、明石さんと菅公さんが地元で作っているデニムの服を着まして、いろんな所へ行って宣伝をしてくれるということになりました。

また、ちょっと違いますけれど、岡山の関西高校が今年、創立130年になられまして、制服が来年度から変わります非常におしゃれなデニムのブレザーと、それからチノパンになるということで、制服業界ではかなりの話題になっていることを伺っております。そういうことなどなど色々なところでこの地元の繊維産業がとてよくPRできて、ありがたいなと思っております。

もちろん、この児島の駅の近くでは、味野商店街の皆さんが大変ご協力をいただきまして、今、ジーンズストリート、確か37店舗出していただいているような状況でございまして、各所で皆さんが頑張ってくださいと、大変ありがたく思っております。

繊維のことは、また、皆さんの方からもお話があればと思っておりますけれども、我々の倉敷市立短期大学にも服飾美術学科があり、元々は保育の専門の学校として誕生しまして、今、社会的な注目を浴びております。今日も学生さんがいらっしゃっていますが、学生のみんなにも頑張ってもらいたいなと思っております。児島の大きな魅力のひとつだと

思っております。

また、来年には、瀬戸大橋の30年もございます。もう30年かというふうに思いますが、昭和63年に開通しましてからですので、また、皆さんの方からご意見をいただければありがたいなと思っております。

それと、去年から今年にかけての大きなことといいまして、三菱自動車さんのことを、ちょっと申し上げます。当地におきましても難波プレスさんをはじめといたしまして、多くの関連企業さんがいらっしゃり、また、テレビ、新聞の方にも出てありますけれど、プレスさんの方も形態が変わるということをお話しております。その中で、倉敷市としましては、とにかく、市内の大変大きな産業でありますので、何としても、この水島の工場を使ってもらいたいということ、それから、なぜこの水島の工場を使うのが三菱さんにとっても、日産さんにとっても、ルノーさんにとってもいいのかということ、この間、言っていました。12月にゴーンさんが三菱さんの会長に就任をされまして、その一番最初の日に面会をさせていただいた時は、明確なことは言われておりませんでしたけれど、とにかく、この水島の自動車産業というのは、我々の地域にとって、本当に大きな影響があり、かつ、大きな競争力を持っているんだということをお話ししました。ゴーンさんの方からは、しっかり研究してから今後の方向性を決めます、ということでお話があったんですけど、先日、6月の末に来られまして、おかげさまで、去年の生産台数が20万台ぐらいで少なかったわけですけど、ゴーンさんとしては、これから大体、あと数年の間ぐらいじゃないかと私は思っておりますけれど、生産台数を倍増していきたい、というふうに皆さんの前で言われました。「今20万台を40万台にしていきたいと思う」と。それから、地元の部品メーカーのサプライヤーさんたちのことを、いろいろ調べられたというふうに思います。そうしましたら、非常に競争力が高いところが多いと、他のところと比べても負けるところじゃないと、だから、台数を増やすのと合わせまして、大体この3年ぐらいで、地域からの部品の調達購入額を60%ぐらい増やしていきたいと思っております。このことを公の場で明言をされましたので、私は大変良かったなというふうに思っております。ゴーンさんにおかれましては、非常にこの地元の力があるということをお話いたしましたので、皆さんにまずはご報告をさせていただきました。

それでは「一緒に考えるこのまちの地域力」ということで、私が話したと全く話していないことと何でも結構でございますけれど、最近のこの児島の地域のこと、もちろん倉敷市全体でもいいんですけど、できればこの児島が中心で、こういうところが自分が気になるのか、こういうところについてももっとこうしたらどうかとか、そのあたりのお話がありましたら、教えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

観光課

《参加者Aさん》

Aと申します。よろしく申し上げます。このまちの地域力ということで、地域力を上げるために市としてもいろいろと政策を打って、いろんなことをやってきているのですが、さっきの「ひるね姫」もそうなんです、なかなか施策を実施した後の、効果の検証というアナウンスがほとんど見えてなくて、例えば記念日プロジェクトというのを何年前からやられていると思うんですが、これ、うまくいっているのかどうかとか、例えば「ひるね姫」のスタンプラリーをやりましたけど、計画通りだったのか、計画より少なかったのか多かったのか、そのへんのところがどうなっているのかが全く（見えてこない）。

やるときは大々的に新聞やテレビに出たりするんですけど、中間での検証だったりとか、報告だったりとか、状況が全く掴めないまま、また次の新しいものによって変わっていったという感じがどうしてもするんですよ。単年度会計なので、効果の検証をする前に既に来年度のことに入っていったりすることも多いものですから、そういったものが見えてこない、今の地域力というものを判断する材料がなかなか見えてこないというのが現状じゃないかと思いますので、そのへんのところを市としてももう少し情報発信の方をやっていただければと思います。ありがとうございます。

《市長》

どうもありがとうございました。確かに今Aさんが言われますように、施策をした効果がどうなっているのかということだと思います。すみません、報告とか途中で受けたりとかしているんですけど、今日詳しい細かな数字までは。スタンプラリーの方も、特に下津井が大きな舞台になっていますので、下津井回船問屋の入場の人数が非常に増えております。ですので、映画を見られて家族連れで来られる、若しくは東京から来られるという方が非常に増えておまして、私が途中の段階で聞いただけでも、スタンプラリーで2,000人以上の方が来られまして、当初の計画よりは多いというふうに思っております。ですので、非常に好評だというふうに認識しています。神山健治監督は非常に海外の方からも人気がありますし、上海の国際映画祭に行かれたとか聞いていますので、これから海外の方も児島に来られるんじゃないかと思っております。もちろんこれだけではないんですけど。

記念日プロジェクトの方もうまくいっております。どういうふうにかと、ちょっと何と云えばいいのか。うまくいって非常に好評だったものを次のルートにしたいということで、ホームページに実例を出したりということをしておりますが、例えば何組来られたかということも、もっと出した方がいいかもしれないですね。分かりました。よく検討したいと思います。ありがとうございます。

観光課 市民病院

《参加者Bさん》

味野学区のBです。今市長から観光地の。これはこの間7月14日、岡山において北前船の寄港地のフォーラムがありました時に、(市長：そうです。それを言うのを忘れてました)これをパネルで映されて全国発信をされた。私はこれは省いて。2重になるんで。

一つお願いしたいのは、最近のデータで観光客が倉敷、児島、どれくらい来ているかというのが新聞にいろいろ出とるんですよ。(市長：つい最近も出ましたよね)美観地区は380万人くらいです。(市長：児島も出てます)児島も出てますけど、120万人くらいですよ。3分の1弱、少ないんですね。どうしてじゃろうかと色々考えますと、美観地区からこちらへ来るアクセスの問題があると思うんです。それをどういうふうに考えていくかが、一つの問題じゃろうと思うんです。それから、JRの岡山から児島へ来るお客がどういう形で降りていくのかと。これが資料でいくと定期と不定期とあって、不定期というのが観光じゃろうと思うんですよ。定期というのが通学とか通勤、そういう方じゃろうと思うんです。それが年間で300万人くらいおられたんですか。児島で降りる人。そういう人がどこへ行くのか。観光地へ来られよんか、単なる買い物等で来られとんか、ということがはっきりせんので。そのへんを少し(分析)したらよろしいんじゃないかというふうに思います。

今集客数のことをちょっと言いましたけど、今鷺羽山でも然りです。ビジターセンターへ上がるところにトイレがあるんです。土地が岡山でしょ。建物が倉敷と聞いとるんですけど。違いますか。王子が岳、ここにもトイレはあります。しかもそこには猫を、生まれたやつを全部捨てとるんじゃないと思うんです。そういうのを、玉野市との合同ということになると思うんですわ。それとあとホテル。ホテルはこれまた環境庁いうんか、なんとかしてもらわないといかんのじゃないですか。観光地としてちょっと、国に働きかけて、これをやっていただきたいと思います。

今のこれとは別で、先般7月15日、児島地区の福祉講演会というのがありまして、市民病院の院長、江田先生が講演されたんです。その中に一点だけ言うと女性の乳がんの検診、マンモグラフィと言うらしいんです。それが非常に高いんですけど、それを是非市長に進言して、これを先生も言われようたんです。その点ちょっと考えてください。

《市長》

北前船の寄港地フォーラムのことを言っていただきまして、大変ありがとうございました。当日会場の方にお越しいただいた皆さんもいらっしやると思うんですけど、倉敷市の中で北前船の寄港地だったのは、下津井の港、それから玉島の港、大きく2つでございます。あと岡山県内の寄港地で言えば、玉野の日比と牛窓、というふうになっております。江戸時代から明治にかけての日本の物流の大動脈だった、北海道から日本海を通過して下関のところを回って瀬戸内海に入って大阪まで、堺の港まで来る大動脈の北前船の中で、我々の児島の地——玉島もそうですけれど——の役割は非常に大きなものだったということを、今回全国の方が認識してくださったというふうに思っております。

ご存知ない方もいらっしやるかと思うので、ちょっとだけお話ししますと、この江戸時代から明治にかけての大動脈の中で、児島の野崎さんのところを中心として作ってました塩田の塩と、干拓地で土地の塩分が多いので、綿花が非常に盛んだったということ。この大きな2つのものがぐるっと回りまして、日本海側では天候が不順で、なかなか塩ができにくいということがありますので、それが北陸や東北・北海道の方に行って塩昆布の作成になったり、塩鮭の作成になったりということで、かの地の皆さんたちは自分たちの海産物を出荷することができたということで、大変喜ばれておりました。そして一方で、北海道のニシンの粕が、またイワシの粕が、これは東北あたりと聞いておりますけれど、それを運んできて、我々の綿花の栽培の肥料にした。できた綿花はまた戻って行って、北国のどてらになって非常に重宝されたということで、今回私も酒田とか新潟とか北海道の松前の皆さんと交流をしましたが、本当にこの北前船の交流をこれから再度復活させていくような取組みをみんなでしようということで、話が一致したところでございました。さっき言われましたように、倉敷市は繊維産業の自分のところの成り立ちとストーリーで日本遺産になったんですが、北海道と東北・北陸の皆さんは、北前船のことで日本遺産を今回取られたんです。その申請の過程では我々は別だったので、別々に取っているんですけど、実は向こうの皆さんの方からも、倉敷市も今後北前船の方にも入ってもらえないかということで話をいただいておまして、今後追加の申請の方に、うまく入れればということ、ちょっと思っているところでございます。

さっき言っていました観光客の皆さんのことで、倉敷の美観地区は350何万人が確か384万人くらいに、8%くらい増えました。児島も、正確な数字は忘れてしまっ

たんですけど、109万人から120万人に、同じくらい伸びておりまして、増えているんですが、全体の数が3分の1ということでございます。実は今回、繊維のまちのことで日本遺産を全体で取りたかった理由というのがそれでございます。この日本遺産をこれからうまく活用していければ、日本遺産のまちということで、じゃあ倉敷市内の中でも美観地区に来て、そういう歴史や伝統に関心がある人は児島にも行きましょう、それから玉島にも行って町並み保存地区を見ましょうと、市内を回ってもらいたいなということで、我々は皆さんと相談して出したんです。今、なかなか交通のことでうまくいっていないところもあるんですけど、今後いろんな観光ルートを組む中で、これを一つの大きなきっかけとして、頑張っていきたいなというふうに思っているところでございます。

それからトイレのことは、ビジターセンターのトイレは県と相談しておりますので、今皆さんがあそこが汚いとずっと言われておりますので、なんとかしたいと思っておりますし、王子が岳の下の駐車場のトイレは去年私も伺いまして、やり替えを検討しているところでございますので、今よりはよくなっていくよう頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

移住定住推進室、健康長寿課

《参加者Cさん》

本荘学区のCと言います。よろしくお願いたします。先ほど市長の言われました日本遺産、一輪の綿花から始まる倉敷物語、これを見てまして、認定されたということで、私商工会議所へ行きまして、綿花の種をもらいまして植えたんですけど、(市長：うまく芽がでましたか) 3本だけ芽が出てるんです。だからこれから楽しみだなと思うんです。

今日はふれあいトーク、一緒に考えるこのまちの地域力ということで、昨年本荘公民館でふれあいトークをやっていただきまして、ありがとうございます。その時にいろんなお話をさせていただきました。その中から本荘では、それをもとに、行政の方からお声掛けもあったりしまして、地域活性化推進協議会というものを立ち上げようとしている最中でございます。その中で、トークの場というものを、今回72回ということで、非常に活発に市長ご活躍だろうと思います。いろいろ聞いてみても、情報発信している場所がまだ少ないんじゃないかなと。行政が思っているやりたいこと、我々が思っているやりたいことをマッチしながら進めていけば、より地域の活性化といいましようか、地域力になるんじゃないかというふうに思います。だから各担当部署と話せる場、それは児島であったら連合会を通じてお話の場をつくるか、こういうものがあれば非常にうまくいくんじゃないかなというふうには思うんです。そのへんそういうお考えがあるのかなのかというのが一つ。

それからもう一つです。市民病院が今年29年度に新しい市民病院になるということで、今国の方の地方創生で稼げる地域力というようなことで、その中を色々見てますと、長寿を謳った地域おこしをやられているような地域が全国で数カ所ございました。そういう中でも石川県の白山市だったと思うんですけど、そこは要するに地域の活性化であり、子育てであり、高齢者対策、それをひっくるめた長寿の地域社会をつくろうというようなことが出てました。これは非常に魅力のあることじゃないかなというふうに思います。倉敷の人口が2040年には42万2,000人くらい、6万人くらいしか少なくなならないような計算ではあるんですけど、せっかく新しい市民病院ができるならば、我々は多分、児島であれば、高齢者の割合が非常に高いんじゃないかなというふうに思いますので、逆にそ

れを謳い文句に長寿社会で健康寿命を、そういう地域おこしをすれば、児島の人にもよく利用していただけるようになると思いますし、倉敷市全体がよそから来ることにもなるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そのへんのご検討をしていただければと思います。

一番はさっき申し上げましたように情報公開。情報公開するには、やっぱりお互いの会う場というものをもっともっと頻繁につくっていただきたいなというふうには思っています。是非ともご検討いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

《市長》

ありがとうございます。本荘学区の皆さんにおかれましては、去年もふれあいトークで、移住定住とかのことについても、積極的に取り組んでいこうということでお話をいただきました。その後色々ご相談をさせていただいたりとか伺っております。(Cさん：今進んでおります) 東京圏から移住定住の相談も非常に増えてきておまして、本当にこの地域は天候もよくて住みやすいということで、だから知っていただければ、東京と比べて住みやすいし、また例えば家を求めるにしても、自分が希望するようなところも見つけやすいんじゃないかと思っておりますので、そういうところもPRしていきたいと思っております。

それで、Cさん言われました、このような市民ふれあいトークだけじゃなくてということで、私もどういう形になるかとは思っておりますけれど、例えば移住定住の相談だったらそういう場を通じて、今回は地域活性化推進協議会の方にうちの職員を参加させていただいたりとかいうことをしていると思うんですけど、そういうのを広げていきたいなというふうには思っております。何もないのに出て行ってというのも難しいかと思うんですけど、地域活性化推進協議会ならば、例えば地域包括ケアの地域の健康長寿社会の会議なのか、若しくは地域サロン、ふれあいサロンとか、今市内でもかなり多くのところで皆さんやったださっておりますので、そういうところに例えば職員がお伺いしたりして、勉強させていただいたりとか、ふれあいサロンを立ち上げたりするにしても、もちろん相談をしてくださったりもしておりますので、そういうことが必要じゃないかなというふうには思っております。もちろん職員も既にそういうことも気を付けて取り組んでくれていると思っておりますけれど、これまで以上にそういう方法ができればなど。例えば防災の、自主防災組織の立ち上げの時も出前講座を、話をいただいて伺ったりするのいろいろなところでできればいいなというふうに思っておりますので。ありがとうございます。頑張ります。

市民活動推進課

《参加者Dさん》

味野商店街のDと言います。時間が短いので要望だけお願いしたいんです。せっかく児島に百万人からの観光客が来られても、鷲羽山の方には来てますけど児島のジーンズストリートが出来ても、ここへ観光バスが止まる所がないということで、一つ提案なんですけど、交流センターの東側の橋の公園の所ですけどここを少し観光バスが止まれるようにしていただければと思います。藤原組さんの前を少し入れるようにして。よく観光バスが来ても、前の道路へ止めて、バスがどこかへ移動するという形になる。そのまま素通りする観光バスもありますので、それを是非考えていただきたい。交流センターの西と東、両方に止めれるということになればもっと人も増えるんじゃないかなと思います。

それともう一つ、交流センターの池が無駄なような気がしてしょうがないんです。これ

も埋め立てて何かに利用できないかなと思っています。せっかくジーンズストリートもここまで延びたんですけど、思ったほど今来られてないようなんです。それをどうしたらいいかなと考えたら、やっぱり観光客の人に来てもらわないと人は増えない。バスが止まらなないと人は増えない。そういったことをお願いできればと。お店の方も増やしたいと思って一生懸命頑張っているんですが、お客様が来ないと店も増えない面がありますので。今日はそういうお願いにあがりました。よろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございました。観光バスの止まる場所で、もちろん藤原組さんのところも見てみようとは思っておりますが、今、こちらのロータリーの方も2台くらいは止められるようになっておりますよね。ちょっと分かりにくいですかね。さっき言われたように観光客の方の数も増えていきますので、検討してみないかと思いますが、例えば美観地区の方でも、観光客の方が降りるだけの所が、国際ホテルの前のあたりで一回降りていただいて、バスは一回市役所の駐車場の方向に回ってもらって、また2時間後にここへ来てくださいというふうにしてまして、例えばそういうこととかも今後。まず、分かりやすくするというのも重要かもしれないですね。止めれるかどうか分からないところもあるので、そのあたりをやらないといけないと思っております。結構大型の観光バスも増えてきていると伺っておりますので、分かりやすくということ、誘導するなり、止まる場所のことを考えていくようにしたいと思います。

それから池ですよね。経緯を言うとなかなか難しいところがあるんですが、今の市民交流センターをつくり出す時に、記念館のところをやりかえる時に、両側にありました池の部分、市の原案としては両側とも埋めて地面にした方がいいんじゃないかということで、皆さんに意見を聞いたんですけど、船のコンテストがあるんでちょっと池をつぶしてもらっては困るということがありまして、計画を変えて、今も残しているわけなんですけど、今のところはあまり使われてないかと思っています。それで今後のことについてまた地域の皆さんのご意見をお伺いしたり、利用者の方の状況をお伺いしたりして、もう池が要らないということであれば、すぐには難しいと思いますし、今後またそれを別の形にするとかいうこともあるかとは思いますが、やはりそれぞれにお金のかかることもありますので。そういうご意見があるということは分かります。ありがとうございました。

スポーツ振興課

《参加者Eさん》

100キロマラソンをやっておりますEといいます。今年で大会が10回目になるんですが、第3回大会から倉敷市長に大会の後援をしていただいて、ありがとうございます。いきなり100キロと言っても皆さんなかなか分かりにくいと思うので、大会を始めるきっかけから話させていただこうと思います。私どもは児島健康マラソンクラブのメンバーで、4地区合同のマラソン大会というのが昔ありまして、それぞれの地区で持ち回りの大会をやっていたんです。それが高齢化のために無くなってしましまして、何かしたいと思っていたところ、ある友達がすごく長い距離を走るのが好きで、ウルトラマラソンをやりたいと。それなら練習会の延長みたいな形でとりあえずやってみようと、自分が普段練習しているコースと彼が練習しているコースをつなぎ合わせていったんです。で、名前は、コースをよく見ると、これは児島半島だけど昔、児島が島だった時のコースをなぞらえて

いる、だったら港めぐりで「児島半島港めぐり100キロマラソン」になりました。先ほど言われた北前船が寄港していた下津井は十里港（昔の主要港）だったんですが、風待ち、潮待ちの港。下津井をスタート・ゴールにしようと。で、始めたんです。うちの大会は通常のマラソン大会とは違ってまして、普通のマラソン大会では、5キロなら5キロごとに地区の人が待って接待してくださるんですが、我々は、自分たちで車で選手を追っかけながら給水するという形で大会をやってきたわけです。他のクラブの方も巻き込んで、参加者もボランティアする方も増えて、自立した大会になりつつあるところです。

《市長》

市が後援をさせていただいているというのはスポーツ振興課の方からもうかがっておいりましたが、そういう細かなことは聞いていませんでした。100キロですからかなり朝早くから…（Eさん：朝5時スタートで、他の大会だったら13時間とか15時間というのが普通なんですが、我々は初心者のための大会で、岡山県にウルトラマラソンの大会が無かったというのもありまして、そういう人たちを育てて他の大会へ送り出したいというのがありましたので。今ではうちの参加者が萩往還（マラニック大会）とか250キロとか、そういうのにも参加されてる方もおられます）わかりました。ありがとうございます。そのクラブの加入の方しか走れないわけですか…（Eさん：いえ、基本的にはリピーターを優先させるという参加方法で、私が人数を調整して申し込みの受付をしてるんですが、人づてに聞かれる方とか、ホームページを見て参加したいと言われる方もいます）スポーツを通じて地域のPRをさせていただいているということで、ありがとうございます。

《参加者Eさん》

本当は立ち上げたときに、第10回でやめるつもりだったんです。それを聞かれた児島商工会議所のMさんが、「何か協力できることがあるかな」と言っていたんですけど、具体的に来年どうなるかというのはまだ全然話してないです。もしボランティアの方をどちらからか出していただけるのであれば、来年以降も続けていくことを考えているんですが。また人数が多過ぎると、今までやってきたのは、仲間同士のふれあいというか、地域の方と仲良くやっていくというのが主だったので、そのへんどうかなあというのがあります。あまり多すぎるとエントリーの方も、委託しなければならぬ場合もありますし、駐車場の問題もあります。全国から多くの人を招いて児島や児島半島の魅力を伝えていくという点ではいいんじゃないかなあと思うんです。我々はそういうやり方でやらせていただいています。

《市長》

分かりました。ありがとうございました。

市民活動推進課，健康長寿課

《参加者Fさん》

味野のFといいます。観光ガイドをやっております。さっきの架橋記念館の前の池の話なんですけど、デザインした人が「太鼓橋をイメージしているから一つだけは池を残してください」とお願いしたのが残された原因の一つだと思うんです。使い道はいろいろあると思うけれど、せっかくのデザインなので残してほしかったというのもあったんです。

それから児島っていうのはいろんな繊維素材もいっぱいあるし、すごく資源も豊富でいろんなものがあるし、自然も雨があまり降らないし、野崎さんの製塩業なんかも、普通河口に、川のそばに塩田がないっていうのに川がありますでしょう。それですごく進んだ塩田だったり、ものすごくいろんな文化的な遺産が多いんですよ。それもあつ中で、今、私が一番気にしているのは、高齢化して、パソコンとか若い子がそんなのばっかりしたり引きこもったりして、里山の管理を全然やらない。お年寄りが地域のことをよく知ってるじゃないですか。お年寄りの人を引っ張り出して、協力してもらつて、この児島のいろんな、1年間の自然の良さを利用して、繊維産業と塩業だけでなくもっと色濃い児島を知つてもらつて、もっとこの児島の良さを振り返つてもらいたいと思うし、ここくらい待機児童のいないところはないと思うし、女性が働いてないと恥ずかしい土地だったんです。そういうのがあつたりして、今引きこもつてお年寄りなんかをできたら積極的に、野山の管理なんかもされると、イベントなんかに竹とか、ものすごく木が無駄になっているのでやつてほしいと思います。

《市長》

どうもありがとうございます。池のこつでの最初の経緯も教えていただきまして、また今後、皆さんの意見もお伺いして方向性なんかについても検討していきたいと思つております。また、年長の皆さんの力を是非まちづくりに活用してもらいたいということで、本当に今、70代の方っていうのは10歳以上若い。見かけもそうだと思うし、10歳以上皆さん若いというのが今の年代だと思つたので、いろんな面でまちづくりにもお力添えを賜りたいと思つております。どうもありがとうございます。

市民税課

《参加者Gさん》

倉敷民商の婦人部の活動をしていますGと言います。今、お店をしたりとか中小企業の方もいらつしゃるかと思うんですが、中小企業の業者婦人の給料を認めていただけないんですね。それを56条と言うんですが、その56条を廃止すれば中小企業の人でも気軽に商売もできるんじゃないかなあと思うんです。それで、市長自ら住みやすい倉敷を作るんだということを知つてたんで、私はこの56条をこの倉敷から廃止していただきたいというお願いをしたいと思つて今日は参加させていただきましたので、是非とも56条を廃止していただいて、(市長：56条って何の56条ですか)業者婦人は夫婦で働いても働いたものを給料とみなしてくれない。(市長：所得税法ですか)そうそう。ぜひとも56条を、共産党の力を借りて6月に出したんですけど、廃止までいかなかったんです。考えさせてくれということで、認めてはいただけないんですけど。私は市長から所得税法56条を廃止していただきたいという思いで今日参加させていただきましたのでよろしくお願ひします。

《市長》

ご意見ありがとうございます。多分、今のお話は所得税法の56条のこつで、中小企業の方、申告の白色とか青色とかの関係じゃないかと思うんですけど、(Gさん：そうです)給与の払われる…婦人にだけ払われないということじゃなくて、多分家族の方についてことじゃないかと思うので、経費になるのかならないのかつていうあたりじゃないかと思うん

ですけれど、すみません、私も詳しく知っているわけではないんですが、青色と白色で今形式が違うようになっていくというふうには認識はしています。それで、国の方もこちらの白色の方の、今言われました給与とかの経費にならないというのを見直さないといけないというような、見直しも含めていろんな検討をされているというふうには聞いてますので、ちょっとなかなか所得税法という国の根幹の法律ですので、市からこれを…（Gさん：よそではこれを廃止してるんですよ、実際のところ。大きい市がなかなか通らない現実なんです）よく調べてみたいと思っておりますので。そこまでしかちょっとすみません、今日は。ありがとうございました。

兎島支所建設課

《参加者Hさん》

小川1丁目のHと言います。まず先ほど三菱の件、本当に伊東市長にはお世話になりました。皆さんには紹介ですけども、先日6月にカルロス・ゴーンさん岡山に来られたんですが、もうゴーンさん本人が倉敷にはすごい市長がいる、伊東というすごい市長がいる、彼女は凄いと、言わしめたぐらい本当に色々動いていただいて本当にありがとうございます。

今日は防災の話なんですけど、2004年——平成16年にこのあたり水害に遭いました。台風16号の高潮で今のジーンズストリート、商店街から野崎邸、それから市民病院のあたりもずっと池になるぐらい。下村川、唐琴もそうなんです。それでその後10月12日に今度は福南山の方の池が溢れて大雨の台風18号で水害に遭ったと。それから今13年経ったんですけども、その間、県と市と色々防災対策というか護岸工事であったり浚渫であったりしていただいているんですが、僕が記憶している中で13年のうち8回は床上とは言わないですけども水が溢れて水害、床下であったりとか道を洗うことになってます。という中で、ここ最近、九州にしても秋田にしても実際にああいう大きな災害になっているのは、二級河川以下で、国交省が管理している一級河川ではないところで、かなり大きな被害が出ていると。国交省の方でもそういう指導を地方自治体にしていると。ということで、地元の蓮岡県議が県の土木課と河川課の人と一緒に実は今年の2月に国交省に行ってくれまして、県としてはこういう防災対策を考えてるんですけどっていう案を3つぐらい持って行ってもらって、国交省の方からアドバイスをもらったんですけども、例えば小田川であれば、大正橋を境にしてあれより上は川なんで備中県民局、という川管轄になります。ただその横の道路は今、三地区（幹線）ができたんで、県道から市道になってるんで市の管轄になります。大正橋より南は港なんですけども、県で言えば港湾課ですが、歩道がついているもんですから、それは市の街路課になります。実は平成16年の台風16号の時も、そこを僕は色々話をたらい回しにされたんですけども、今も県の方としては色々対策を打とうとしているんですけども、なかなか市との連携がうまくできないと、市の方が話を聞いてくれないという表現を県はされます。（市長：そうですか？）もう一つその時に言われたのが、大正橋というのが大正ロマンということで眼鏡橋にしているんですけども、あれは国交省の人に見てもらおうと、流量計算をすると明らかに水量の阻害をしている。あそこが堰き止めになっている。潮止めとかもあるんですけども浚渫が要するような堆積の原因になっている。これも県が作ったんですけど、今は市の管轄になって通学路にもなっているんで、なかなかすぐには手が出せない。そういうあたりの話をしたいんですけども、なかなか県と市と連携がうまく取れてないのが現実でという説明を僕は受けていま

す。それが本当かどうかは分からないんですけども、市の職員の方もいっぱいおられると思うんで。そのあたりを、明らかに国交省まで行って指導を受けて、広島整備局の人も一緒に行かれたんですけども、指導を受けて、県としてはこういうふうにやっという方針を出されていると思います。それは市の方にも下りていると思います。ですからそのへんを検討していただいて、13年間で8回も水が溢れている状況ですから、本当は色々ほかにも原因があると思うんですけども、やはり今ジーンズストリートであったりとか、市民病院も建てていただいたりとか、色々インフラ整備していただいているのを守るという意味でも、そのあたりの水の対策をしっかりしていただきたいというのが僕のお願いです。よろしくお願いします。

《市長》

ありがとうございました。ゴーンさんのことは（Hさん：本当にありがとうございます）色々大変でしたけれど、一生懸命頑張りました。

とにかく防災のことは非常に重要なことだと思っております、県と市がうまくいってないということはないとは思いますが（Hさん：ですけど、まあ県の人がそういう表現をわざとされているのかというのはちょっとわかんないんですけど、話が行ってるのは確かなんで市役所に。市の何係か聞けば分かるんですけど、そここの調整がうまくいってないということでは言われてました）大正橋のところ、さっき言われたような水の流通の阻害になるというのは私も聞いております。そここのところがさっきの通学路のことだったり、それから歴史的な建物ということで、それを本当に、例えば…壊すっていうんですか、それができるものなのかどうかっていうところが非常に悩ましいところだと思っております。地域の皆さんの意見も色々伺いしてってことになるかと思うんで、もちろん一方で、市民の皆さんの家とか浸水になってもいけないんでというふうに思っておりますので。県がなかなか意思疎通が図れてないと言うのであれば、市の方もよりしっかり、もうちょっと県との話をするように、蓮岡県議も地元の市議の皆さんもいらっしゃいますので。分かりました。（Hさん：よろしくお願いします）ありがとうございました。

商工課

《参加者Iさん》

倉敷市立短期大学のIと申します。私、今年鹿児島から倉敷市立短期大学に進学したんですけども、進学する前からまちづくりに興味がありまして、そういうまちづくりの活動として、倉敷市自体もすごく最初の方でおっしゃられたように、とても素敵なものがたくさんあるので、ほかの地域とのコラボ企画なんかというイベントとかはないのかなと思ひまして。例えば、他県のA市の物産を倉敷市で発信しながら倉敷市の物産を他県のA市で発信するような、倉敷の魅力を発信したり、またその他県の地域の方々との交流なんかもあったら素敵かなと思ひまして、そういう提案で今回参りました。そのためにやっぱり行政の方々との地域の、何回か意見（交換）があったんですけど、そういう連携なんかがあったら一番まちづくりもしやすいかなと思ひまして、そしたら地域の人達も行政の方々のこういう動きだったりとかが把握できますし、行政の方々も地域の人達の例えば要望だったり悩みだったりが一番分かりやすく、一緒にまちづくりができるんじゃないかと思ひて。また、自分が今年来て半年とかなんですけど、他県から来た人達とかもまちづくりに参加しやすいかなと思ひまして。こういうふれあいトークみたいな場もいっぱいあったら、

参加しやすく知りやすくできるんじゃないかと思って。自分の倉敷市立短期大学でもまちづくりのことたくさんしているので、これからも協力をお願いすることがあるかもしれないんですけど、また児島の企業さんや地域の方々との協力もよろしくお願ひしたいと思っています。以上です。

《市長》

ありがとうございました。学生さん達が色々、本当にファッションのことを始めとして、子育てカレッジもしてもらったり色々やってもらって本当に素晴らしいと思っています。

今、もっとほかの市町との連携があったらいいんじゃないかというふうに言われたんですけど、すごくたくさんあるわけではないんですけど、例えば倉敷市では瀬戸内海の地方での幾つかの都市の連携をしましたり、それから東日本大震災の時に倉敷市から東北に手伝いに色々災害の復旧で行ったんですけど、その時に行ったのも宮城県に、この児島の松島と同じ字松島町っていう町があるんですけど、そこにガレキを回収するために、倉敷市の環境リサイクル局の人達が車とかも全部持って行って約1か月半くらい活動したんですけど、宮城県に行くっていう話になった時に倉敷には松島があるんで、できれば松島町に手伝いに行きたいということで言いましたら、ちょうど向こうも松島は観光地なんで非常に喜んでくれて、それ以来、松島町とそれからその隣の塩竈市っていうところがあるんですけど、そこの間で観光の交流協定を結んで、例えば東京とかと一緒にPRをしたりとか、それからこの前は仙台でしたりとか、それから児島ではまだしてないんですけど、倉敷のみらい公園でしたりとか、そういうこともたまにはやっていますので、そういうのもっと増やしていければいいかなと思っています。学生さんたちが頑張ってもらえるように市も頑張りたいと思います。ありがとうございます。

企画経営室、事業推進課

《参加者Jさん》

こんばんは。児島田の口のJと申します。私も5代ここにおります。大好きなまちです。子ども達も娘も息子も田の口に住まわしています。

それもありまして、今後、海技大学校、この跡地をお考え、色々国とのこともあるかと思うんですけど、広い面積、これをもう一度民売競売になる前にお考えいただければありがたいと思います。それともう一つは道の駅。これを1か所なのか2か所なのか倉敷なのか。これを児島へ持って来ていただいて。簡潔明瞭ですけども、できれば持って来ていただきたいと願っています。大好きな児島なんで、市長よろしくお願ひします。

《市長》

ありがとうございました。海技大学校のことについては、途中まではお聞き及びのところもあるかとも思うんですけど、これまでの元々の経緯がありまして、元々野崎さんのところが県を通じて国の方へ寄付をされたということがありましたので、国の方も市の方で買ってくださいとはもちろん言ってこなかったんですが、ただ当時の土地の面積とか価値のことも多分あるんだと思うんですけど、具体的には間に県が入ってますので、県に対して、そういう災害時の仮置き場といいますか、もしもそういうことがあった場合の何かのために使うものであれば国の方から、県に寄付戻しじゃなんですけど、しましようというような状況になっておりまして、今その手続きがだんだんとされているような状況に

ありますもので、なかなかちょっとそこに道の駅をとというのは…ちょっと難しそうな状況なんですけれど、Jさんが言われますように、児島に子どもさんお孫さんも住まれているわけですので、活気のある場所にしてもらいたいということは私も全く同じ意見でございますので、いろんな面で頑張りたいとは思っております。すみません、全然煮え切らないことで申し訳ありません。とにかく今後とも頑張りますので。ありがとうございます。

企画経営室、障がい福祉課

《参加者 K さん》

自営をやっていますKと申します。数点ちょっとお伺いさせていただきます。昨年の市長選から約1年と4カ月くらいが経ちました。それで、市長のマニフェスト、どれぐらい達成されているんでしょうか、それがまず聞きたい1点ということ。それから、今回A型の作業所が廃止となりました。3桁（の解雇者）というのは、この障がい者の法律ができて初めてだということですが、しかも補助金をもらってすぐにつぶれてしまったと。これに対して倉敷市はどのように考えているのかということと、就職している方がまだ希望者に対して1割程度しかいないということです。早急にするのと、その他の希望を出していない人が中にいらっしゃいますが、なぜ希望を出さないのかという調査ができていますでしょうか。多分市が後手後手になっているのではないかなと思います。それから就労のほうに限られているのではと思います。就労のみで、今倉敷市は説明会を開いているみたいなんですけれども、活動支援センターとかを含めた、広い範囲で就職といいますか居場所を提供するのが市の役割ではないでしょうか。市長の思いをここでお聞かせ願います。

《市長》

はい、ありがとうございました。マニフェストの方が、すみません、あと5分くらいしかないんで、どのくらい達成というのを全部細かく言うのは難しいんですけど、大きな子育て支援、それから健康のまちづくりや活気のあるまちづくり、それから国際的な取り組みとか、未来へのまちづくりとかいうことで、それぞれ、保育園でもまだ待機児童はゼロにはなっていないんですけど、保育園を増やしていったり、それからいろんな形で幼稚園を活用したりということで、取組みが徐々にできているという状況ですので、まだ全部できているという状況ではではないんですが、それぞれ取組みをしていますというところをお願いしたいと思います。

それから、先日来新聞に出ております、障がいのある方の就労の場所であるA型作業所のことなんですけれど、そこについては、市もその届け出がたましてすぐに国とも相談をしました。3桁の方が解雇されるというのは、さっきおっしゃいましたけど本当にこれまでも無いですし、国の補助金を受け取られて、すぐにやめるというような形に外から見えるようになっているのは、どうなっているのかということで、倉敷市としましても疑問を持ちまして、新聞に載っておりますように、普通は無いですけれど事業者に立ち入りをして、市から国の方に対しても相談しまして、国の方も立ち入りをされたり、ハローワークさんとも協力をして次に働かれる意思があるかどうかについてお聞きして、就労の相談をしたりということをやっています。先ほど後手後手になっているのではとおっしゃられたんですが、国の方から見れば、市が先頭に立ってこのこれまでにない事案に対して、積極的に対応していると、他の自治体からも、状況を見て、市にいろいろ問い合わせ

せがありまして、類似の案件があった場合にはどうやって対処できるのか教えてほしいと言っていたところなんです。一番には、今は働いている方がどういう思いを持たれているかということをよく伺いしておりますので、その皆さんの希望がなるべく叶うようにという思いで市は取組みをしていきたいと思っておりますので、ちょっと時間の関係とまだ立ち入り中ですのであまり詳しい事は言えない状況なんですけど、よろしく願います。ありがとうございました。

くらしき情報発信課, 観光課

《参加者 L さん》

倉敷市立短期大学のLと申します。平成29年度倉敷未来プロジェクトとして倉敷市立短期大学では、地域経済での視点から、倉敷児島下津井地域を対象として学生が中心となって、地域資源を掘り起し、その魅力をSNSで発信しています。その取り組みの集大成として、「下津井×市立短大フェスタ」も計画しています。私は下津井出身で、このプロジェクトに参加させてもらっています。ひるね姫や市のプロジェクトにより多くの人に下津井の事を知っていただけることはうれしく思っているんですけど、その反面、観光客が増えることによって、ごみの投棄や無断駐車などによる地域住民とのトラブルに対しての問題を、市として何か対応を取っていただけると嬉しいなと思っています。

《市長》

ありがとうございました。Lさんにおかれましては、短大の学生として下津井の活性化に取り組んでいただきまして大変うれしく思っています。また特に若い方が得意なSNSとか、そういう情報発信で頑張っているというのは我々大人にとっても大変うれしく思いますし、さっきも言いましたが、今後もひるね姫などをきっかけにして魅力発信になると思いますので、お願いしたいと思っております。それで、ちょっと具体的に来訪者の方とのやり取りの面で、今後何か課題が出てくる、また若しくはすでに出ているところがありましたら、具体的に市の支所の方なりへ連絡していただければと思っております。地域の方だけでは解決できないこともたくさんあると思いますので、支所若しくは例えば、下津井回船問屋の皆さん達も非常に精力的に取り組んでくださっておりますので、相談して下さったら、市の方にも話が行くということもたくさんありますので、いろんなルートで、困ることについて相談していただけたらと思っております。住民の皆さんも気持ちよく暮らしていただいて、そして外からの皆さんも温かく受け入れていけたらと思っていますので、今後ともご協力よろしく願います。ありがとうございました。

文化振興課

《参加者 M さん》

こんばんは、児島商工会議所のMです。伊東市長には日ごろから大変お世話になっております。すみません、時間を過ぎましたけどこれだけはと思まして、手を挙げさせていただきました。いろいろまちづくりとか産業とか日ごろからお願いをさせていただいております。今回「文化の触れ合うまち、倉敷児島」「文化を体験できる倉敷児島」を思いながら提案を考えました。児島地域には旧野崎家住宅があり、ここに多くの美術品があります。例えば、能面が92枚あります。去年は野崎家住宅の中で展示をされたり、金沢市の金沢能楽美術館などで展示をされたりしました。これらの多くの美術品を、児島の市民が見る機会が大変少ない。また児島の企業の中にも、多くの美術品をコレクションしている方も

たくさんおられます。以前児島地区には展示する美術館が無いということで、倉敷の美術館や瀬戸内の美術館で展示をするなど、児島の住民は美術芸術に触れる機会が大変少なく、文化に乏しい児島と言われております。そこで、年間50万人以上集まる児島市民交流センターに美術館を設置していただきたい。また先日、松島の下津井小学校分校跡地に、海の美術館、また現代アートの美術館を建設というか、直すという位置づけですということなので、それと併せて相乗効果が生まれるのではないかと。文化に触れ合うまちということで検討していただきたいと思っております。

もうひとつは、児島文化センターの活用につきまして、建物の老朽化が進んでおり、倒すとか倒さないとかいろいろな意見がございますけど、私としてはぜひ残して欲しい施設だと思っております。その活用方法につきましては、若い芸術家のグループや劇団などに練習の施設として使用できるように改装し、無料で貸し出しをし、その練習風景などを地域の子どもや学生、大人に見てもらって、文化を身近に感じてもらえるような取り組み、例えば「児島アートセンター」のような名称に変えるなどして、いろいろな劇や練習などを見ていただければと思っております。もちろん一般の利用についても従来通り、使用できるように工夫がありますが、ぜひとも文化の発信と新たに文化の体験ができる施設ということで、この2つをぜひとも考えてもらいたいと、こう思っています。以上です。

《市長》

はい、ありがとうございました。すみません、ちょっと時間の関係で、最初に皆さんのご意見をお伺いして、それから最後にまとめてということでもいいでしょうか？それでは次の方どうぞ。

児島支所建設課

《参加者Nさん》

大正橋という話が出たんで、大正町内会のNといいます。大正橋のところ、家が2件あったのを倒してしもうて、後をそのままと言うてええんか、交差点のところ非常に見苦しいような状態で、児島に入って来る、あそこは玄関先じゃと思うんで、やっぱりあそこを綺麗にしていきたいと思えます。以上です。

健康長寿課

《参加者Oさん》

稗田のOと申します。ちょっと、市の福祉の方でお願いしたいですけど。現在倉敷では、高齢者に向けての緊急通報システムというのがございます。制度はかなり前からできているようなんですが、市民が知ってるかという、非常に知られていない。先般支所の方の窓口にも行きました。で、私民生委員も兼ねていますんで、地域で高齢者、人を集めるから、できれば市の方で来て緊急通報システムの制度そのものを教えてほしい、説明してほしいとお願いしました。窓口の女性も非常に親切に聞いてくださって、行く気はあったようですが、本庁の方に相談しておりました。そうしたら、残念ながらあきらめる以外なかったんです。こういうシステムは、心筋梗塞とか脳梗塞、夜間独居老人もいるものですから、いろいろなことがあると思えますけれど、この場合に一番に簡単なシステム、こういうボタン式ですか、それだけで通報ができるシステムなんで、そのシステムはあるけれども、それを知っている市民が少ないと。で、できれば出前講座というようなものが市の方でありますよね、それで例えば住民を集会所へ集めるから、そこで市の方で説明して

くれという事を説得して欲しいんです、福祉課へ。それだけです。お金はいりません。以上です。

児島支所建設課

《参加者 P さん》

塩生に住んでおりますPと申します。今日はありがとうございます。今年の新年互礼会で、市長に最後ちょっと、児島地区を第二の美観地区にして欲しいとお願いをしておいたのを、覚えていらっしゃるでしょうか。倉敷も美観地区ですが、児島も第二の美観地区になりうるだけの素材があるという事を申し上げたつもりです。鷲羽山を始め、瀬戸大橋、児島駅、ジーンズストリート等々たくさんあって、私非常に児島が好きでございます。そしてその児島が、観光客がいっぱい来て、第二の美観地区になることを思って、新年互礼会で市長に、児島にたくさんお金を落して、児島が活性化していいまちになるようにとお願いしておりました。

それで、ちょっと市長にお伺いしたかったのは、児島の玄関というと、一つは児島駅だと言う方がいらっしゃると思うんですが、私は、児島のインターチェンジを非常に重要視しております。というのは、県外からのお客様は、児島のインターを通して児島にやってきます。そのあたりの整備といいますか、美観が非常に損なわれているのが現状だと思います。是非この児島の玄関を、児島駅もちろん大事でございますが、できたらインターチェンジの方から入って来るお客さんに対して、児島はきれいだよ、いいまちだと言えるようにしてほしいなあとあって、今日マイクを持たせてもらいました。よろしくお願ひします。

《市長》

はい、皆さんどうもありがとうございました。今20時10分過ぎで、様々な観点からお話をいただきましたので全部に細かくお答えするのも難しい状況で申し訳ないんですが、さっきMさんが言われましたような、文化のまちというのは、もちろん繊維産業が前面にでてくる基幹産業なわけですけど、当然その背景、それをめぐるところには、文化財的なものや美術ということもたくさんあると思います。さっき、そういう美術に触れる機会が少ないと言われていましたが、確かに倉敷地区の方では大原美術館などがあるので、すぐ行きやすいというのがありますけれど、どういう手法ができるのかは分かりませんが、いろいろな観点を踏まえて、まあ、すぐ具体的に頭に浮かぶわけでは無いんですが、今後何か話をする時に検討していきたいと思います。

また、Nさんがおっしゃられた大正橋の交差点のところをもっとちゃんとということですね、ちょっとよく検討します。その時にはもちろん町内会の方にもご相談したいと思いますので。

それから、Oさんの緊急通報システムについてですけど、ちょっとすみません、細かくは覚えてないんですけど、たしかその緊急通報について、いろんな条件があったようにも記憶しているんですけど、そういった所を踏まえて、必要な方にそれを持ってもらえるように、少なくとも分かってもらえるように、方法をちょっとよく検討したいと思います。教えていただきましてありがとうございました。

それから最後にPさんの方から、児島地区を第二の美観地区にという事でお話ございましたが、「第二の」ということではないと思いますけれど、違う観点だと思いますので、

とにかく児島の魅力を全国に発信したいと思います。それから、児島のインターチェンジのあたりって、どのあたりの事なんですか。インターチェンジを出て。

《参加者 P さん》

両方です。インターチェンジを出て、瀬戸大橋へ行くまでと、児島の市内に行くまでの両方です。道路というか周辺ですね。

《市長》

両方の道の周辺ですね、なるほど。ちょっと県ともよく相談をする必要があるかと思えますけれど、やはり車で入って来る一番最初のところですので、よく踏まえて頑張りたいと思います。

最後に、市民病院の方もご存知のように順調に建てあがりつつあります。今年度内には建物も出来る予定にはなっております。その中におきまして、一度市の方から発表などもさせていただいたり、正式にはこれから議会の方に条例のご相談をしたりという事になるんですけど、建て替わりました新しい病院につきましては、市といたしましては是非「倉敷市立市民病院」ということで、倉敷市全体の市民病院でございますので、「児島」のところが取れて寂しいとおっしゃられる方もいらっしゃるかとは思いますが、みなさん市民病院と呼んでいただいているところもありますし、市全体で一つしかない大事な市立病院でございますので、そういう形でいかせていただければと思っております。来年の3月末か、4月の初めか、ちょっとまだ時期が決まっておりませんが、とにかくそのくらいの時期には新しい所にオープンいたしますので、皆さんなるべく病気になる方がいいのですが、病気の時には、市民病院をご利用いただければと思っております。また分娩の方も再開いたしておりますので。

ちょっと、時間切れになってしまって最後の方は時間がなくて申し訳ありませんでしたけれど、いろいろな観点で児島の魅力、それからこういったことが必要だということを教えていただきましてありがとうございます。それでは今日はいろいろな観点からお話をいただきまして誠にありがとうございました。

《終》